

【参考様式－５】個別施設計画（橋梁）

施設名称	完成年度	管理主体	当該路線名 架橋河川(道路)名	造成事業	施設の場所	集落コード
暁橋	昭和58年度	山江村	山田川	農免農道 山田・山田Ⅱ期地区	球磨郡山江村	

道路橋示方書	昭和53年度版	橋の等級(設計荷重)	2等橋	特記事項	
--------	---------	------------	-----	------	--

施設概要	施設の規模	橋長(支間長)	58.2m(28.24m)		幅員(車道幅員)	7.7m(6.5m)
	施設の構造	上部工型式	PCT桁			
			鋼製(使用鋼材)	塗装使用の有無	支承形式	落橋防止の有無
			有		無	
		橋台工型式	逆T型橋台		基礎形式	ケーソン基礎
	橋脚工型式	壁式橋脚		海岸からの距離	28km	
計画策定目的	農免農道山田地区および山田Ⅱ期地区の整備に伴い、山江村が管理している。橋は建設後42年が経過しており、昭和53年以前の道路橋示方書に基づいて設計されたため、現行の耐震基準を満たしておらず、そのため耐震補強や改修が必要である。現時点では軽微な損傷は見られるものの、今後も定期的な点検を継続し、その結果に基づいて長寿命化のための計画を策定していく方針とする。					

調査結果概要	現地調査	本橋梁は、建設から42年が経過しているものの、現時点で顕著な損傷や劣化が見られなかったことから、構造的な健全性は比較的良好な状態を維持していると考えられる。			
	詳細調査(点検)	●床版:床版のひび割れ・漏水・遊離石灰 ●主構:ひびわれ、剥離・鉄筋露出、漏水・遊離石灰 ●横桁:定着部の異常 ●高欄:腐食 ●舗装:ひびわれ、段差 ●伸縮装置:変色・劣化、漏水・滞水 ●橋台/橋脚:ひびわれ、漏水・遊離石灰			
	劣化原因(推定)	判定区分 I			

長寿命化対策概要	対策工法(案) 【老朽化対策】	①床版: ひびわれには、低圧注入工法(エポキシ樹脂系)or充填工(ポリウレタン系)、表面含浸工(シラン系) ②主構・横桁: ひびわれには、低圧注入工法(エポキシ樹脂系)or充填工(ポリウレタン系)、表面含浸工(シラン系)、剥離・鉄筋露出には、断面修復工(左官工法) ③高欄: 塗装塗替工or取替え工 ④舗装: 橋面防止工(シート系)、橋面舗装工(アスファルト舗装) ⑤伸縮装置: 取替え工 ⑥橋台: ひびわれ低圧注入工法(エポキシ樹脂系)orひびわれ充填工(ポリウレタン系)、表面含浸工(シラン系) ⑦橋脚: ひびわれ低圧注入工法(エポキシ樹脂系)orひびわれ充填工(ポリウレタン系)、表面含浸工(シラン系) ※上部工および下部工の補修作業には足場の設置が必要。			
	対策時期(案) 【老朽化対策】	①、②、③、⑥、⑦については、 現時点では経度の損傷であるため、経過観察の上、計画的に対応策を講じることが望ましい。 ④、⑤については、 今後の進行状況を把握するために、追跡調査や維持工事を実施しながら、計画的に対応策を講じることが望ましい。			
	対策費用(参考) 【老朽化対策】	・ひびわれ低圧注入工 244千円 ・断面修復工 230千円 ・表面防水工 3073千円 ・高欄取替え工 5820千円 ・橋面舗装工(防水工) 2750千円 ・伸縮装置取替工 3549千円 ・足場工(吊り足場) 10162千円			
		合 計(直接工事費)	25828千円	25828千円×2.5(経费率)=	64570千円 (概算工事費)

管理方法	管理方法	定期的な点検や診断、必要な措置、記録の管理を中心としたメンテナンスサイクルを基本とし、継続的な点検と維持管理作業を適切に行うことで、予防保全的に管理していくことが望ましい。			
------	------	--	--	--	--

	令和6年	令和7年	令和8年	令和9年	令和10年	令和11年	令和12年	令和13年	令和14年	令和15年
対策費用(長寿命化)(百万円)										
対策費用(更新)(百万円)										
対策の内容・時期		定期点検					定期点検	橋面舗装工 伸縮装置取替		

長寿命化計画による効果

日常点検や定期点検の診断を通じて、早期に劣化や損傷を発見し、未然に対策を講じ、橋梁の安全性と耐久性を確保し、計画的・効率的に維持管理を行い、維持修繕・架替に係わる費用を縮減し、合理的な維持管理が可能となる。